

平成23年度学校評価システム実施状況報告について

徳島県立三好高等学校

本校においては、学校活動の改善のための主体的な取組の推進と学校と家庭・地域との相互理解の促進をめざして、学校評価システム推進委員会を組織して評価計画を策定し、学校評価に取り組んでまいりました。

各重点課題の下、重点目標及び評価指標と活動計画により、その実現状況を各担当が収集したデータや生徒のアンケートをもとに集計・考察した結果を、平成23年度学校評価総括評価表として報告いたします。今後とも御協力をお願い申し上げます。

総合評定における「評定」の基準

A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

重点課題	重点目標（概要）	総合評価（所見概要）
学力の育成	I 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める。	B 学習活動の中心が授業にあるということは、生徒達にだいぶ浸透してきたと思われ、授業態度も年々良くなってきている。個別指導については、効果はかなり期待されるので、各教科担任・ホームルーム等が連携して、学習指導を進めていきたい。
	II 読書力の向上を図る。	C 読書冊数や、来館者数が前年比 43 %、一人あたりの来館数 14 回と大幅に減少している。図書室があまり開いていないなどの原因が挙げられる。開館時間や開館日数を増やし、図書室が「生徒の居場所の一つ」となれる環境作りを今後とも継続して進めていきたい。
生活力の育成	I 基本的な生活習慣の確立を図る。	A 本年度、全校生徒に対して家庭訪問を実施した。家庭訪問の結果として遅刻・欠席数の減少、頭髪・服装等の身だしなみ指導がスムーズにできたと考えられる。
	II 生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。	自転車事故と原付事故が1件ずつあった。 交通マナーの遵守や保護者への注意喚起などの方策を考えなければならない。
	III 教育相談活動の充実と生徒支援に努める。	B 生徒は教職員に親しみを感じつつも相談の満足度は6割にとどまっている。各種検査結果により生徒理解を深め、個々の生徒に応じた指導に活かした。生徒一人ひとりに応じた特別支援教育も含む相談活動を行うため、教職員の技術的・時間的対応力を養う必要がある。
	IV 人権教育の推進を図る。	B 「学校人権の日」で実施した個別人権課題への理解度は 96 % と高い値を示したが、一部には人権への理解度が低い生徒も見られた。更に学習を深めるとともに、態度化・行動化に向けた、人権意識の高揚が今後の課題である。

生活力の育成	V 特別教育活動の充実を図る。	B 全体的には概ね目標を達成できたが、次の点において改善の必要があると思われる。 生徒会執行部の活動は、毎年会長を中心に活動できているが、さらに自覚と自信を持って活動させていきたい。 部活動入部率は 53%と昨年度（61.6%）に比べ減少しているが、教職員の指導の下熱心に活動し、顕著な成績を収めることができた。
	VI 環境教育の推進を図る。	B 校内外の清掃美化活動やゴミの分別が定着してきた。省エネ関係では、電気使用量をグラフ化することで、意識の高揚に効果があり、電気使用量も減少した。エコキャップや廃油の回収も軌道に乗り、予想以上に協力してくれている。
	VII 防災教育の推進を図る。	B 地震想定避難訓練は想定が難しく十分な訓練ができていないが、早急に具体化していくことが必要である。
	VIII 保健厚生への取組の充実を図る。	B 健康管理の理解度・意識度は高い水準を維持しているが、行動の変容につながるよう指導の工夫が必要である。
キャリア教育	I 一人ひとりの生徒の能力適性を生かした進路の実現のための進路指導を推進する。	B 高校生活を通して、キャリア教育を構築するための進路ノートの改善を行い、有効活用することができた。就職希望に対しては不況の波は大きく、今後も厳しい状況が予想される中で、職場開拓がさらに重要であり、同時に基礎学力の定着とコミュニケーション能力を高めることが求められる。
	II 特色ある農業教育内容の推進を図る。 (小さな成功体験の積み上げ実践)	A 授業満足度は 94.1%と比較的高く、また農業技術検定の合格率 100%を達成した。地域ブランドや、特産品の研究においては、課題が多く、大きな進展が見られていない部分もあり、今後の継続研究が必要とされる。
	III 商業の各分野に関する基礎的基本的な知識と技術を習得させる。 IV 各種検定・資格取得を積極的に推進する。 V 実践的・体験的学習を充実させる。	A 3種目以上1級合格者が3年生8名、2年生1名と過去最高であった。この結果は、生徒の取組と先生方の創意工夫による授業展開が効を奏した結果であり、授業への満足度も 80%と高い値を示している。競技会ではワープロ競技会の県大会3連覇に加えて電卓競技会の優勝など優秀な成績を残した。また、国家資格であるITパスポートに1名合格した。また、出張販売や校内販売で地域貢献ができた。
開かれた学校づくりの推進	I 教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を深める。	B ○学校Webページの更新回数 57回 ○報道機関等の取材回数 24回 楓祭、開放講座、体験入学、異校種間連携等を通じて、学校を開放し、地域に対して本校教育内容を理解を得ることができた。

